1．乳がんに関する教材や支援プログラムの開発に関する意見

母親の闘病支援や社会一般に向けた啓発活動、支援プログラムや教材作成に関する意見も数多く聞かれた。それらの活動のターゲットとしては、母親自身、子ども、家族、学校や教員、社会全般が挙げられた。

1）母本人や家族に向けた支援/活動

治療を受ける母親が余力をもって子どもと向き合うためには、家ことや育児の負担を軽減する必要性が多くのインフォーマントに指摘された。手軽に利用できる家事ヘルパーや乳幼児を外で遊ばせてくれる人の確保、さらにそれらの情報が自治体の窓口まで行かなくても病院内で簡単に入手できることが重要であるという意見が多かった。

また、診断直後から親が利用できるようなアドバイス集も求められていた。ある程度時間がたてば患者会などを利用した同病者間の情報交換も可能だが、診断直後は身近に同病者がいないことも多い。診断直後から活用できるよう、子どもへの伝え方や日常生活を維持するヒントなどについて手軽によめるアドバイス集が求められていた。

1）子どもに向けた支援/活動

子どもが手にとって読める教材の開発も期待されていた。乳がんという病気や各種治療を解説した漫画やゲームなど、書籍以外の媒体も効果的だろうという意見があった。書籍も含めて、それらの教材を学校に整備することの必要性も指摘された。

親ががん治療を受けている子ども同士が交流できるようなプログラムについては、「子どもの目線からわかりやすく教えてあげる」ようなもので、堅苦しい教室ではなく遊びながら学べるようなものが好ましいという意見もあった。

遊びながら学ぶにはいいんじゃないかなあ。<お教室になってしまうと・・>しんどい。何だろ、お母さんってすごいことになってるなって感じになっちゃうから。お母さんが病院で抗がん剤やって点滴受けてる間に、子ども達も来て、こう、何だろ、そういう同じような子達がいれば、楽しいかな。お前の母さん病気なの？とかそういう感じで。だったらいいんじゃないかなあ。遊びながら学ぶみたいな。お互い結構立場似てたりして。「俺の母さんも今点滴入れてるんだけど」とか、そういう感じで、「（その点滴って）何でだろうね？」って、子どもなりの言葉で話し合えたらいいかなあと。<そこにその子どもなりの言葉が分かる医療者がいて、子ども目線から分かりやすく教えてあげる・・> そうでないと、小学生レベルだと、ちょっと難しいかな
（#1　診断時40歳、小5息子・小2娘）

2）学校や教員に向けた支援/活動

子どもが長時間をすごす教育現場の支援力に期待するインフォーマントもいた。「学校の教師は自分の親は見ていても、もっと若い、担当する子どもの親の世代の健康問題には接点がないので、（教員

向けの教材があれば）子どもの気持ちのフォローの仕方がわかるかもしれない（＃１）」という意見もあった。

３）社会全般に向けた支援/活動

乳がんという病気が現実よりも楽観的にとらえられていることへの抵抗感が、多くのインフォーマントに指摘された。内臓系のがんと同様、乳がんも命に関わる重大な疾患であり「切れば終わり」ではないことを社会一般に広く知って欲しいという意見が多かった。

もっと知ってもらった方がいいんじゃないかと思うんですよね。何かほら、ピンクリボンとかああいうちょっと中途半端なキャンペーンよりは、個人の体験とか。本当は、こうなんだよっていうものを・・・。何か乳がんって結、切って、直ぐ終わりっていうイメージだと思うし、それは色んな方がネットで書いてらっしゃいましたけども、私も同じように、やっぱり、切って終わりだよねっていう感覚で見て欲しくないなっていうのはあります。
（＃15　診断時38歳、小1娘）

（患者会の会長が市民啓発活動を）すべきだって言って。私もそれは、学校のＰＴＡなり保健所なり、そういうとこでこそ啓発を（するべきだと思う）。そうすると、お子さん達がね、低年齢の時にそういうことを知って、もっと、いいんじゃないかなーって思いますね。<中略>家庭でというよりは、社会でそういうふうな雰囲気になっていくと、家庭も変わっていくかもしれないですね。
（＃８　診断時50歳、23歳息子、20歳娘）

D.　考察

本稿では、乳がん診断後の子どもへの病名・病状の伝達状況と関連要因、および啓発活動に焦点をあて、患者である母親自身の視点からのデータを分析した。インフォーマント全体の中では、病名・病状の伝達について、診断当初から子どもに事実を伝達する親は少数派であり、種々の要因から少なくとも当初はがんであることを隠すケースのほうが多いことが明らかになった。さらに、病名を隠したとしても、さまざまな状況から子どもは親の病気ががんであることを察知し、親がそれを否定しないことで結果的に「自然に伝わる」状況も生まれていた。「自然に伝わる」状況は、子と対峙しなくてすむ分、親側の心理的負担は少ないかもしれないが、子どもが認識する病状と実際の状況とが乖離していることも危惧される。

今回のインタビュー調査から、親のがんを子どもに伝える際の留意点について、いくつかの示唆がえられる。

第一に、正確な状況説明のためには、親自身の心身のコンディションが整うとともに、周囲の身近な大人たちから支援が不可欠である点である。

多くのインフォーマントが、診断当初は自らが状況を子どもに伝えられるような精神状態になかったことを指摘していた。子どもへの的確な病状伝達のためには親自身が自らの状況を正確に把握する必要があり、乳がんという疾患や種々の

治療に関する親の理解を促すための教材の一層の充実が望まれる。また、子どもに病名・病状を伝える際の具体的なアドバイスも、診断早期から提供される必要がある。治療を受ける母親本人や子どもを支援するためには、夫、親族、友人ら複数の大人たちによる護送船団的なサポートも効果的であろう。周囲の身近な大人たちの支援力を高める目的で、患者本人を取り囲む人々をターゲットにした教材やプログラムの開発も検討する必要がある。

さらに、治療に由来する暮らし全般の変化を最小限にとどめ、生活上の落ち着きを維持するためには、通院や治療に伴う副作用で疲弊した親を支援するための家事や育児全般に向けたサポートも必要である。近年はインターネットなどで関連情報が入手できるが、診断当初は時間的・心理的余裕もないだけに、少ない労力で必要とする情報にアクセスできるような工夫が必要である。具体的には、医療施設内で家事ヘルパーや育児支援情報が入手できるような体制が強く望まれる。

第二に、乳がんという病気や種々の治療・副作用を子どもにわかりやすく説明するための教材やプログラムの開発の必要性である。今回のインタビューでは、少なからずの親の病名・病状の説明は不十分であり、子どもたちは種々の状況から「何となく」あるいは「自然に」親の病名やその意味を察知していた。親から子どもに向けて明確な言語的コミュニケーションによる病状伝達が必ずしも実施されていない状況では、子どもの病状認識と現実の状況との間に乖離が生じている可能性もある。子どもが乳がんに関する基礎的知識を入手し、疑問を解決するとともに、病気に関する親とのコミュニケーションを促進できるような子ども向けの教材やプログラムも求められよう。その際、情報媒体や内容の表現については、子どもの発達段階に応じたさまざまな工夫が求められよう。

第三に、まだがんの診断を受けていない人も含めて、社会一般に向けた啓発活動が重要である点である。乳がんは日本人女性のがんの罹患率第1位で年間約4万人が新たに診断されているが、他のがんと比較して予後が良好であることが強調されすぎている点は否定できない。早期発見・早期治療を強調したメッセージが、「早く発見すれば大丈夫」とうけとられて必要以上に乳がん患者の予後を楽観的に見せている可能性がないとはいえない。乳がんと診断された本人は、たとえ疫学データ上は他のがんと比較して相対的に良好な予後が期待できたとしても、乳がんの診断によって現実的な死の可能性と長期的に直面するのであり、楽観的な予後表現に違和感を抱くこともある。がんという病気の意味、乳がんという病気の疫学的データ、治療内容や副作用、「切ったらおしまい」の病気ではないことなどについて、社会一般に向けて、詳細でわかりやすい情報提供が今後求められるだろう。ターゲットとしては、地域住民、産業保健領域の産業医・産業保健師・企業の人事担当者・一般労働者、学校領域の養護教諭・一般教諭・スクールカウンセラー・PTA役員、さらには在学する子ども自身を対象とした教育も検討されるべ

きであろう。

E. 結論

半構造化インタビュー調査の結果から、病名・病状を明確に伝えないインフォーマントが少なからず存在し、伝達スタイルにはさまざまな要因が関連していることが明らかになった。21 年度もインタビュー調査は継続し、母本人に加えて子どもや夫をより積極的にリクルートする予定である。さらに、母対象の質問紙調査も企画・実施する予定である。

F. 健康危惧情報

なし

G. 研究発表

1. 論文発表

①Takahashi M, Ohno S, Inoue H, Kataoka A, Yamaguchi H, Uchida Y, Oshima A, Abiru K, Ono K, Noguchi R, Kai I: Impact of breast cancer diagnosis and treatment on women's sexuality: A survey of Japanese patients. Psycho-Oncology, 17(9):901-907, 2008

②Watanabe Y, Takahashi M, Kai I: Japanese cancer patient participation in and satisfaction with treatment-related decision-making: a qualitative study. BMC Public Health, 8:77doi:10.1186/1471-2458-8-77, 2008

③高橋都： がん患者・家族のセクシュアリティへの支援 —支援のヒントと活用できるリソース. 家族看護、6(2):109-113, 2008

④高橋都： 各職種におけるサイコオンコロジーへの関与（3）：一般臨床医（身体科）の立場から. コンセンサスがん治療、7(1):30-31, 2008

⑤高橋都, 稲葉育代, 小島真奈美、田代美貴： 座談会「患者さんの性の悩みをタブーにしない」 特集「ナースが患者の性に向き合うとき」. 看護学雑誌、72(2):100-107, 2008

⑥高橋都：「がんサバイバーシップ」という言葉が意味するもの、死生学第５巻＜生死の境界をめぐる医と法＞（高橋都, 一ノ瀬正樹編）東京大学出版会, pp 9-30, 2008

⑦高橋都： 患者とパートナーの関係への支援. ナーシング・プロフェッション・シリーズ がん看護の実践２「乳がん患者への看護ケア」（嶺岸秀子、千崎美登子編）、医歯薬出版、pp 97-102, 2008.

⑧高橋都：医療者のための死生学, （印刷中）

⑨高橋都：性機能障害. 新臨床腫瘍学第２版 南江堂 （印刷中）

2. 学会発表

①高橋 都、宮下美香：若年患者が直面する心理社会的困難と情報ニーズ～社会文化的背景に基づいた支援策への提言、第 16 回日本乳がん学会総会、2008

②川名典子、梅沢志乃、高橋 都：看護師向け「がん患者とのコミュニケーショントレーニングセミナー」の実施と評価、第 21 回日本サイコオンコロジー学会、2008

G. 知的財産権の出願・登録状況（予定を含む）

なし

参考文献・関連サイト

1) NPO 法人 J-POSH「キッズ・ファミリープログラム」
http://www.j-posh.com/kis.htm
2009 年 3 月 16 日アクセス

2) 厚生労働省支援こと業「Hope Tree ～パパやママががんになったら～」
http://www.hope-tree.jp/
2009 年 3 月 16 日アクセス

3) Huizinga GA, van der Graaf WTA, Visser A, Dijkstra JS, Hoekstra-Weebers J. Psychosocial consequences for children of a parent with cancer - A pilot study. Cancer Nursing 2003;26(3):195-202.

4) Visser A, Huizinga GA, van der Graaf WTA, Hoekstra HJ, Hoekstra-Weebers J. The impact of parental cancer on children and the family: a review of the literature. Cancer Treatment Reviews 2004;30(8):683-94.

平成20年度厚生労働科学研究費補助金　(第3次対がん総合戦略研究事業)
患者・家族・国民の視点に立った適切ながん情報提供サービスのあり方に関する研究
(研究代表者：高山智子)

分担研究報告書

日本版Fact Sheet作成のためのがん情報基礎データベースの構築方法に関する検討

研究分担者　高山智子　　国立がんセンター　がん対策情報センター
がん情報・統計部　診療実態調査室　室長
研究協力者　八重ゆかり　東京大学大学院医学系研究科　薬剤疫学講座

研究要旨

患者・家族・一般市民が求めるがん情報を迅速・適切に提供するためには、正確でかつ根拠に基づいた医療情報の蓄積が求められる。海外における研究成果による世界標準での診療情報や治療法に関する情報とともに、日本人における疫学研究・臨床研究等に基づいた情報の蓄積は特に重要である。米国国立がん研究所が提供しているがん関連情報のNCI Fact Sheetから選択した96トピックスについて、日本版Fact Sheetとしてのがん情報基礎データベースの構築方法について検討した。日本における疫学及び臨床研究等によるエビデンス情報については、レビュー情報として、①日本で作成された診療ガイドライン、②国立がんセンター　予防研究部のプロジェクト成果、③「生活習慣と主要部位のがん　-世界がん研究基金/米国がん研究協会編『食物・栄養とがん予防』の日本人への適用性-」(日本がん疫学研究会がん予防指針検討委員会編著)から、収集・抽出、整理した。その結果、米国国立がん研究所が提供しているNCI Fact Sheetに掲載されているがん関連情報には、多様な内容が含まれ、Fact Sheetごとの構成内容はさまざまであった。またNCI Fact Sheetを基本として、日本のエビデンスを整理したところ、抽出された情報は、いわゆる診療情報(治療に関する情報)が主であり、癌になるリスクや予防に関する情報はほとんど得られなかった。現在日本においては、さまざまな媒体上に、かつ治療や予防などの情報ごとに異なる場所から提供されているが、今後、がん関連情報が一元管理され、利用者の利便性を考慮した形式で提供される必要性があることが示唆された。また、今回検討したトピックスに合致しない日本で得られているエビデンス情報も多く存在することが認められ、日本版Fact Sheetの構築の必要性と、構築の際に、日本人に対してより蓋然性のあるトピックスを取り上げることを検討することが必要と考えられた。

A．研究目的

米国国立がん研究所では、がん種ごとの科学的エビデンス集としてまとめられているPDQ®（Physician Data Query®）以外に、がん種別の治療方法以外の主に疫学研究等のがんに関する情報リソースが、Fact Sheet という形でまとめられ公開されている。この方式による情報整理は、NCI 内では年々増加しており、その理由として、最新の情報提供が求められている提供者にとって、情報の整理・作成が、紙媒体などの他の方法に比べて比較的容易であること、Web 上の情報集として整理されているためアップデートがしやすいこと等がその理由としてあげられている。日本のがん情報の整備は、まだはじまったばかりであり、今後、最新の情報をどのように整理し、提供していくか、とくに日本の中での知見をどのように集積し、提供していくかは、がんに関する情報提供方法のあり方として非常に大きな課題となっている。そこで、本研究では、米国国立がん研究所が提供しているがん関連情報の NCI Fact Sheet から選択した 96 トピックスを基本として、日本における疫学及び臨床研究等によるエビデンス情報を収集・整理し、日本版 Fact Sheet としてのがん情報基礎データベースの構築方法について検討することを目的とする。

B．研究方法

NCI Fact Sheet として作成されている10の内容（がん種、危険因子/原因として考えられるもの、予防、診断、がん治療、サポート/コーピング/資源、タバコ/禁煙、情報資源、ＮＣＩについて、がんの健康格差）のうち、日本の状況に関連すると考えられる 96 トピックスを選択し、その構成内容、分類方法について検討を行った。

1．NCI Fact Sheet の構成分類の検討

日本版Fact Sheet 作成作業のための基礎情報として、NCI Fact sheet の構成分類について、項目立てに関するパターン分類を、(1)項目立てがあるか、(2)項目が Clinical / Research Question（CQ）形式になっているかの２つの視点から行った。表１に４種の分類項目を示した。

表１：NCI Fact Sheet 構成の分類項目

分類項目
A. 項目があり、すべての項目が CQ 形式である。
B. 項目がありかつ、CQ 形式の項目と CQ 形式でない項目の両方が混在している。
C. 項目がありかつ、すべての項目が CQ 形式ではない。
D. 項目がない。

2．日本における疫学及び臨床研究等によるエビデンス情報の収集・整理

日本における疫学及び臨床研究等によるエビデンス情報の収集・整理を行うにあたって、すでに、日本において情報の整理がなされているがん関連情報に関するレビュー情報を収集し、そこから日本のエビデンスに関する情報を抽出・整理を行った。レビュー情報の抽出にあたって実施した 1)情報源の特定と 2)情報の抽出手順を以下に示す。

（1）情報源の特定

以下に示す３つの情報源から、日本のエビデンスに関するレビュー情報を抽出する

こととした。

① 日本で作成された診療ガイドライン

A (財) 日本医療機能評価機構 EBM 医療情報部のガイドライン収集資料

B 金原出版の診療ガイドライン・シリーズとして出版されているガイドライン

C 日本癌治療学会がホーム・ページで提供しているガイドライン

② 国立がんセンター 予防研究部のプロジェクト成果

A 「多目的コホートに基づくがん予防など健康の維持・増進に役立つエビデンスの構築に関する研究」(主任研究者 津金昌一郎 国立がんセンターがん予防・検診研究センター予防研究部長); Japan Public Health Center-based Prospective Study: JPHC Study の結果の概要

B 「生活習慣改善によるがん予防法の開発に関する研究」(主任研究者 津金昌一郎 国立がんセンターがん予防・検診研究センター予防研究部長); Development and Evaluation of Cancer Prevention in Japan の「現状において日本人に推奨できるがん予防法」

③ 生活習慣と主要部位のがん-世界がん研究基金/米国がん研究協会編「食物・栄養とがん予防」の日本人への適用性-日本がん疫学研究会がん予防指針検討委員会編著

(2) 情報の抽出手順

上記①～③に示した情報源からの抽出対象情報の特定方法と抽出方法を以下に記述する。

① 日本で作成された診療ガイドライン

A (財) 日本医療機能評価機構 EBM 医療情報部のガイドライン収集資料

(財) 日本医療機能評価機構 EBM 医療情報部 (Minds) では、国内で作成されている診療ガイドラインの収集・保管を行っており、国内で作成された診療ガイドライン情報の検索に基づく診療ガイドライン・リストを作成している (ガイドライン・リストの作成方法については資料1参照)。この診療ガイドライン・リストは、書籍として作成されているガイドライン、論文発表の形式で公表されているガイドライン、厚生労働科学研究報告書または文部科学研究報告書として公表されているガイドライン等について、それぞれの標題一覧として作成されている。このうち、書籍として作成されているガイドラインの標題一覧データの提供を受け、その中から、米国 NCI Fact sheet から選択された 96 トピックスに関連していると判断されたガイドラインを抽出した。同一のガイドラインについて、複数年にわたって改定版が発行されている場合には、最新年の版を採択することとした。

その後、採択したガイドラインから、関連する内容の抽出を行った。本研究では主に乳がん、肺がん、大腸がん、前立腺がん、子宮頸がん、胃がんの 6 がん種を優先的に作業する対象疾患とした。

B 金原出版の診療ガイドライン・シリーズとして出版されているガイドライン

金原出版株式会社ホーム・ページには 2009 年 2 月 20 日現在、診療ガイドラインとして 36 冊が紹介されている (資料2)。その中から、米国 NCI Fact sheet から選択された 96 トピックスに関連していると判断されたガイドラインを選定した。つぎに、選定されたガイドライン中に記載されている情報の中から、96 トピックスに関連する

内容を抽出した。

C　日本癌治療学会がホーム･ページで提供しているガイドライン

日本癌治療学会ホーム・ページの「がん診療ガイドライン」のページ（http://www.jsco-cpg.jp/top.html）には、2009年2月20日現在、胃がん、GIST、食道がん、腎がん、膵がん、大腸がん、胆道がん、乳がん、皮膚悪性腫瘍、卵巣がんの10ガイドラインが公開されている（資料3）。これらガイドラインのうち、米国NCI Fact sheetから選択された96トピックスに関連していると判断されたガイドラインを選定した。

情報抽出基準としては、本website（日本癌治療学会ホーム・ページの「がん診療ガイドライン」のページ）上に掲載されている内容と、そこに情報源として提示されている「ガイドライン（書籍等）」の内容を比較し、「ガイドライン（書籍等）」中にある情報は、Aで選択したガイドラインからの情報として抽出することとし、それ以外の内容がある場合に、本websiteからの情報として抽出することとした。

②　国立がんセンター　予防研究部のプロジェクト成果

A「多目的コホートに基づくがん予防など健康の維持・増進に役立つエビデンスの構築に関する研究」（JPHC Study）結果の概要

JPHC Studyの結果概要として、2009年2月20日現在、91項目が公表されている（資料4）。それらの中から、米国NCI Fact sheetから選択された96トピックスに関連していると判断された項目を選定し、その「概要部分」から関連する内容の抽出を行った。

B「生活習慣改善によるがん予防法の開発に関する研究」

「生活習慣改善によるがん予防法の開発に関する研究」ホームページの「現状において日本人に推奨できるがん予防法」の項目に、2009年2月20日現在、6項目が提示されている（資料5）。それらの中から、米国NCI Fact sheetから選択された96トピックスに関連していると判断された内容を抽出した。

③「生活習慣と主要部位のがん　-世界がん研究基金/米国がん研究協会編『食物・栄養とがん予防』の日本人への適用性-」日本がん疫学研究会がん予防指針検討委員会編著

書籍「生活習慣と主要部位のがん-世界がん研究基金/米国がん研究協会編『食物・栄養とがん予防』の日本人への適用性-」（日本がん疫学研究会がん予防指針検討委員会編著）には、食物・栄養とがんとの関連に関する過去における研究の知見が下記のがん種ごとにまとめられている。そのうち、米国NCI Fact sheetから選択された96トピックスに関連していると判断された情報を抽出した。

C．研究結果

1．NCI Fact Sheetの構成分類

NCI Fact Sheetから選択した96トピックスについて構成に基づき分類を行った結果を表2に示した。そのほとんどがClinical Question（CQ）形式であったが、それ以外の形式（項目名とその内容説明の形式）だけのトピックスや、両者が混在しているもの、また項目立てのないトピック

スも少数ではあるが存在していた。

表２：NCI Fact Sheet の構成分類の結果

分類項目	該当トピックス数
A. 項目があり、すべての項目が CQ 形式である。	55
B. 項目がありかつ、CQ 形式の項目と CQ 形式でない項目の両方が混在している。	13
C. 項目がありかつ、すべての項目が CQ 形式ではない。	22
D. 項目がない。	6
計	96

２．日本における疫学及び臨床研究等によるエビデンス情報の収集・整理

（１）情報源の特定結果

① 日本で作成された診療ガイドライン

A（財）日本医療機能評価機構 EBM 医療情報部のガイドライン収集資料、B 金原出版の診療ガイドライン・シリーズとして出版されているガイドライン、及び C 日本癌治療学会がホーム・ページで提供しているガイドライン、それぞれのガイドライン一覧から、NCI Fact Sheet の 96 トピックスに関連する内容を含むと思われるガイドラインの選定を行った。その結果、表３に示す 36 トピックスに対して、計 201 ガイドライン（同一のガイドラインが関連するものとして異なるトピックスに複数回選定されている場合は、それぞれのトピックスごとにカウントした）が選定された。

表３：診療ガイドラインに記述のある NCI Fact Sheet トピックス

	NCI Fact Sheet トピックス ID	NCI Fact Sheet トピックスタイトル
1	17	ピロリ菌とがん
2	19	中絶、流産と乳がんのリスク
3	32	乳がんリスクの推定
4	35	BRCA1と BRCA2の遺伝子検査：あなたの選択
5	37	ヒト・パピロマウイルスとがん
6	39	磁場暴露とがん
7	40	閉経後ホルモン補充療法とがん
8	43	NCI乳房再建研究
9	47	経口避妊薬とがんのリスク
10	48	妊娠と乳がんのリスク
11	51	HPVと子宮頸ガンがんに関する最近の研究
12	52	シリコン乳房インプラントと乳がんのリスク
13	54	抗生物質の使用と乳がんリスクの増加との関係
14	57	乳がん予防研究
15	58	がんワクチン
16	64	前立腺がん予防試験
17	70	タモキシフェンとラロキシフェン研究
18	72	大腸がんスクリーニング
19	73	CT
20	80	アメリカ女性の乳がんのなりやすさ
21	83	マンモグラムのスクリーニング
22	84	肺がんスクリーニングのスパイラルCT
23	86	パップテスト
24	87	PSA検査
25	89	腫瘍マーカー
26	91	乳がんの補助療法
27	96	骨髄移植と末梢血幹細胞移植
28	98	閉経後早期乳がんの再発低下のためのタモキシフェン使用後のプラセボとレトロゾール比較試
29	99	がん治療の代替補完医療
30	104	がんの遺伝子治療
31	105	ハーセプチンR
32	111	予防的乳房切除術
33	113	がんの放射線療法
34	114	センチネルリンパ節生検
35	116	タモキシフェン
36	120	終末期ケア

② 国立がんセンター　予防研究部のプロジェクト成果

A「多目的コホートに基づくがん予防など健康の維持・増進に役立つエビデンスの構築に関する研究」（JPHC Study）結果の概要

項目 No. １～91 すべてを通覧し、96 トピックスに関連する内容を含むと思われる項目の選定を行ったところ、表４中に示す 15 トピックスに対して、計 35 項目（同一の項目が、関連するものとして異なるトピックスに複数回選定されている場合は、それぞれのトピックスごとにカウントした）

が情報抽出対象項目として選定された。

表４：JPHC Study 結果概要に記述のある NCI Fact Sheet のトピックス

NCI Fact Sheet トピックス ID No.	NCI Fact Sheet トピックスタイトル	JPHC ID No.	JPHCタイトル
1 17	ピロリ菌とがん	37	ヘリコバクター感染と胃がん罹患との関係: CagAおよびペプシノーゲンとの組み合わせによ
		66	分化型胃がんと未分化胃がんにおけるヘリコバクター・ピロリ感染の意味について
2 32	乳がんリスクの推定	44	体格と乳がん罹患の関連について
3 40	閉経後ホルモン補充療法とがん	28	生殖関連要因やホルモン剤使用と女性の肺がんとの関係について
4 46	肥満とがん	17	肥満度（BMI）とがん全体の発生率との関係について
		32	肥満指数（BMI）、身長と前立腺がんの関係について
		55	肥満指数・運動量、喫煙・糖尿病歴と膵がんとの関連について
5 47	経口避妊薬とがんのリスク	28	生殖関連要因やホルモン剤使用と女性の肺がんとの関係について
6 48	妊娠と乳がんのリスク	43	生理・生殖要因と乳がん罹患の関連について
7 57	乳がん予防研究	21	喫煙・受動喫煙と乳がん発生率との関係につい
		43	生理・生殖要因と乳がん罹患の関連について
		44	体格と乳がん罹患の関連について
		65	血中のイソフラボン濃度と乳がん罹患との関係について
		9	大豆・イソフラボン摂取と乳がん発生率との関係について
8 63	身体活動とがん	42	身体活動量と大腸がん罹患との関連について
		55	肥満指数・運動量、喫煙・糖尿病歴と膵がんとの関連について
9 64	前立腺がん予防試験	32	肥満指数（BMI）、身長と前立腺がんの関係について
# 69	お茶とがん予防	16	緑茶飲用と胃がんとの関連について
		56	緑茶・コーヒー摂取と膵がんとの関連について
		60	緑茶飲用と前立腺がんとの関連について
		64	血中の緑茶ポリフェノールと胃がん罹患との関連について
# 72	大腸がんスクリーニング	47	大腸がん検診受診と大腸がん死亡率との関係
# 89	腫瘍マーカー	34	高感度CRP（C反応性蛋白）と大腸がん罹患との関係について
# 133	たばこ喫煙とが	10	お酒・たばこと大腸がんの関連について
		14	喫煙とがん全体の発生率との関係について
		21	喫煙・受動喫煙と乳がん発生率との関係につい
		4	飲酒とがん死亡率との関係について: たばこの影
		5	たばこと肺がんとの関係について
		59	受動喫煙とたばこを吸わない女性の肺がんとの関連について
		7	たばこ・お酒と胃がんの関連について
# 149	受動喫煙	21	喫煙・受動喫煙と乳がん発生率との関係につい
		59	受動喫煙とたばこを吸わない女性の肺がんとの関連について
# 152	女性と喫煙	14	喫煙とがん全体の発生率との関係について
		21	喫煙・受動喫煙と乳がん発生率との関係につい
		59	受動喫煙とたばこを吸わない女性の肺がんとの関連について

B 「生活習慣改善によるがん予防法の開発に関する研究」

資料５に掲載した６項目として提示されている内容は、他の情報源から得られる情報に含まれるものであったため、この情報源からの個別情報としては抽出しなかった。

③ 「生活習慣と主要部位のがん -世界がん研究基金/米国がん研究協会編『食物・栄養とがん予防』の日本人への適用性-」 日本がん疫学研究会がん予防指針検討委員会編著

本書籍に収載されている情報のうち、食道がん、胃がん、大腸がん、肝がん、胆嚢がん、膵がん、肺がん、女性乳房がん、子宮頸がん、子宮体がん、前立腺がんの 11 項目が情報抽出対象となった。それぞれが該当したトピックスは表５中の５つのトピックスであった。

表５：『食物・栄養とがん予防』に記述のある NCI Fact Sheet のトピックス

NCI Fact Sheet トピックス ID	NCI Fact Sheet トピックスタイトル	がん疫学研究目次番号	がん疫学研究目次名
1	46	肥満とがん	1 食道がん
			10 子宮体がん
			11 前立腺がん
			2 胃がん
			3 大腸がん
			4 肝がん
			5 胆嚢がん
			6 膵がん
			7 肺がん
			8 女性乳房がん
			9 子宮頸がん
2	63	身体活動とがん	1 食道がん
			10 子宮体がん
			11 前立腺がん
			2 胃がん
			3 大腸がん
			4 肝がん
			5 胆嚢がん
			6 膵がん
			7 肺がん
			8 女性乳房がん
			9 子宮頸がん
3	69	お茶とがん予防	1 食道がん
			10 子宮体がん
			11 前立腺がん
			2 胃がん
			3 大腸がん
			4 肝がん
			5 胆嚢がん
			6 膵がん
			7 肺がん
			8 女性乳房がん
			9 子宮頸がん
4	133	たばこ喫煙とが	1 食道がん
			10 子宮体がん
			11 前立腺がん
			2 胃がん
			3 大腸がん
			4 肝がん
			5 胆嚢がん
			6 膵がん
			7 肺がん
			8 女性乳房がん
			9 子宮頸がん
5	149	受動喫煙	1 食道がん
			10 子宮体がん
			11 前立腺がん
			2 胃がん
			3 大腸がん
			4 肝がん
			5 胆嚢がん
			6 膵がん
			7 肺がん
			8 女性乳房がん
			9 子宮頸がん

（2）情報の抽出結果

① 日本で作成された診療ガイドライン

本研究では主に乳がん、肺がん、大腸がん、前立腺がん、子宮頸がん、胃がんの6がん種を優先的に作業する対象疾患としたが、今回の報告では、乳がん、肺がん、大腸がんの3つのガイドラインについて96トピックスごとの関連内容の抽出作業を実施した。

＜乳がん＞

・科学的根拠に基づく乳癌診療ガイドライン(1)薬物療法 2007年版

・科学的根拠に基づく乳癌診療ガイドライン(2)外科療法 2005年版

・科学的根拠に基づく乳癌診療ガイドライン(3)放射線療法 2008年版

・科学的根拠に基づく乳癌診療ガイドライン(4)検診・診断 2005年版

・科学的根拠に基づく乳癌診療ガイドライン(5)疫学・予防 2008年版

・乳房温存療法ガイドライン医療者向け「標準的な乳房温存療法の実施要項の研究」班に基づく治療指針 2005年

＜肺がん＞

・EBMの手法による肺癌診療ガイドライン 2005年版

・有効性評価に基づく肺がん検診ガイドライン 2006年

＜大腸がん＞

・大腸癌治療ガイドラインの解説 2006年版 大腸癌について知りたい人のために 大腸癌の治療を受ける人のために

② 国立がんセンター 予防研究部のプロジェクト成果

96トピックスのうち、15トピックスに関連した内容が抽出された。抽出された内容は主として胃がん、乳がん、大腸がん、前立腺がん、肺がんに関するものであった。

③ 「生活習慣と主要部位のがん ·世界がん研究基金/米国がん研究協会編『食物・栄養とがん予防』の日本人への適用性·」 日本がん疫学研究会がん予防指針検討委員会編著

96トピックスのうち5トピックスに関連した内容として、食道がん、胃がん、大腸がん、肝がん、胆嚢がん、膵がん、肺がん、女性乳房がん、子宮頸がん、子宮体がん、前立腺がんの11項目から情報抽出した。

D．考察

米国国立がん研究所が提供しているNCI Fact Sheetには、がん患者およびその家族、また一般市民に対する様々ながん関連情報が掲載されているが、Fact Sheetごとの構成内容についても様々な方法がとられていた。Clinical Questionとそれに対する解答の形（CQ形式）をとっているものが主なものであったが、情報内容として必ずしも質問と解答の形が適さない場合もあり、項目立てがCQ形式になっていないトピックスや両者が混在しているトピックスもあった。この背景には、Fact Sheetの内容が、科学的エビデンスのまとめであったり、NCIの紹介といった必ずしも科学的なエビデンスに基づかないもののまとめであるといったように、書かれている内容による違いにも起因していると考えられる。現在、診療ガイドラインの作成方法においても、その構成を「CQとそれに対する推奨」とする場合とそうでない場合とがあるが、今後日本でのエビデンス情報を基礎にした日本版Fact Sheetの構成を検討するうえでも、

この点は考慮する必要があると考えられた。情報の利用者が患者本人であるか、また患者を支援する立場の者（医療提供者、患者の家族または介護者、支援として情報提供を行う者など）であるかによって、利用しやすい情報の構成は異なると予想されるが、NCI Fact Sheet でもそうであるように、少なくとも CQ 形式を基本とすることは、どのような立場の利用者にとっても利用しやすいものになると予想される。

今回は、日本版 Fact Sheet としてのがん情報基礎データベースの構築につなげるために、日本における疫学及び臨床研究等によるエビデンス情報を、日本のエビデンスに関するレビュー情報、すなわち①日本で作成された診療ガイドライン、②国立がんセンター　予防研究部のプロジェクト成果、③「生活習慣と主要部位のがん　-世界がん研究基金/米国がん研究協会編『食物・栄養とがん予防』の日本人への適用性-」（日本がん疫学研究会がん予防指針検討委員会編著）から抽出した。 NCI Fact Sheet から選定した 96 トピックスを基本として、各情報源から該当する内容を抽出したが、診療ガイドラインから抽出された情報は、胃がん、乳がん、大腸がん、肺がん等に関する、いわゆる診療情報（治療に関する情報）が主なものであり、癌になるリスクや予防に関する情報はほとんど得られなかった。これら、がんのリスクや予防に関する情報は、主として国立がんセンター予防研究部が公開しているプロジェクト成果から得られるものであったが、情報としては、胃がん、乳がん、大腸がん、肺がん等の患者数が比較的多いがん種に偏っている点は、診療ガイドラインと同様であった。

以上のようにがん情報は、学会作成による診療ガイドラインやがん専門組織が提供するがん関連情報など、現在は書籍・インターネットなど様々な媒体上に存在している。そして提供されている情報は、治療に関する情報、予防に関する情報などが異なる場所に存在している状態である。しかし情報の利用者である患者や家族、一般市民が持ちうる不安や疑問は治療の場合もあれば予防の場合もあり、また、疑問を持つ本人が治療か予防かなどを明確に区別できない場合もあると思われる。このような状況を考慮するとき、治療や予防に関する情報が一元管理の形で収集・整理されたうえで、利用者の利便性を考慮した形式で情報提供されることが求められていると考えられる。

また今回の情報抽出は、NCI Fact Sheet から選定した 96 トピックスを基本としたが、情報抽出の過程において、日本で得られているまたは提供されているエビデンス情報が 96 トピックスに合致しないものも多く存在することも認められた。日本版 Fact Sheet の構築においては、日本人に対してより蓋然性のあるトピックスを取り上げることを検討することが必要と考えられた。

E．結論

患者・家族・一般市民に適切・迅速にがん情報を提供するためのがん関連基礎情報データベース構築について検討するために、NCI Fact Sheet に基づいて日本人における疫学研究・臨床研究等に基づいたエビデンス情報を収集・整理した。その結果、現在様々な媒体上に、かつ治療や予防などの情報ごとに異なる場所から提供されている

がん関連情報が一元管理され、利用者の利便性を考慮した形式で提供される必要性があることが示唆された。また、日本人でのエビデンスに基づいた医療情報を基礎とした日本版Fact Sheet構築の重要性とその可能性が確認された。

F．健康危険情報

なし

G．研究発表

1．論文発表

なし

2．学会発表

なし

H．知的財産権の出願

1．特許取得

なし

2．実用新案登録

なし

3．その他

なし

Minds 診療ガイドライン・データベースについて

診療ガイドライン検索方法(2007 年度)

データベース	抽出条件
AMAZON	医学・薬学のカテゴリーの中で、書籍のタイトルに "ガイドライン"の記載のあるもの
日本医書出版協会	書籍タイトル（準書名・書名・副題・シリーズ名）に "ガイドライン"の記載のあるもの
厚生労働科学研究成果データベース	全項目（研究課題名、要旨等）に、"ガイドライン" の記載のあるもの
文部科学省データベース	医歯薬分野の中で、全項目（研究課題名、要旨等）に、 "ガイドライン"の記載のあるもの
医学中央雑誌	研究デザイン項目に、"診療ガイドライン"が付与されているもの（1999 年以降 付与開始）
東邦大学医学メディアセンター	全てのデータを抽出
日本医科大学電子図書館 EBM ガイドライン	全てのデータを抽出
今日の治療指針(医学書院) 付録：診療ガイドライン	全てのデータを抽出
ガイドライン外来診療(日経メディカル開発)	目視にて診療ガイドラインの情報を抽出、手入力

金原出版株式会社ホーム・ページに紹介されている診療ガイドライン36冊一覧
（2009年2月20日現在）

No.	標題	作成者	発行日
1	食道癌診断・治療ガイドライン（第2版）	編）日本食道学会	2007/04/10
2	胃癌治療ガイドライン（医師用）2004年4月改訂(第2版)	編）日本胃癌学会	2004/04/30
3	胃がん治療ガイドラインの解説（一般用）2004年12月改訂　胃がんの治療を理解しようとするすべての方のために(第2版)	編）日本胃癌学会	2004/12/20
4	大腸癌治療ガイドライン　2005年版（第1版）	編）大腸癌研究会	2005/07/10
5	大腸癌治療ガイドラインの解説 2009年版 大腸癌について知りたい人のために　大腸癌の治療を受ける人のために(第2版)	編）大腸癌研究会	2009/01/20
6	科学的根拠に基づく肝癌診療ガイドライン 2005年版　構造化抄録ＣＤ･ＲＯＭ付き(第1版)	編）科学的根拠に基づく肝癌診療ガイドライン作成に関する研究班	2005/02/28
7	科学的根拠に基づく膵癌診療ガイドライン 2006年版　構造化抄録ＣＤ－ＲＯＭ付(第1版)	編）日本膵臓学会 膵臓診療ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ作成小委員会	2006/03/10
8	エビデンスに基づいた急性膵炎の診療ガイドライン（第2版）	編）急性膵炎の診療ガイドライン第2版作成出版委員会	2007/03/08
9	内視鏡外科診療ガイドライン 2008年版（第1版）	編）日本内視鏡外科学会	2008/09/01
10	EBMの手法による肺癌診療ガイドライン 2005年版（第2版）	編）日本肺癌学会	2005/11/20
11	科学的根拠に基づく乳癌診療ガイドライン 1. 薬物療法 2007年版　構造化抄録 CD-ROM付(第1版)	編）日本乳癌学会	2007/06/29
12	乳癌診療ガイドライン 2. 外科療法 2008年版 構造化抄録 CD-ROM付(第1版)	編）日本乳癌学会	2008/09/26
13	乳癌診療ガイドライン 3. 放射線療法 2008年版構造化抄録 CD-ROM付(第1版)	編）日本乳癌学会	2008/09/26
14	乳癌診療ガイドライン 4.検診・診断 2008年版 構造化抄録 CD-ROM付(第1版)	編）日本乳癌学会	2008/09/26
15	乳癌診療ガイドライン 5. 疫学･予防 2008年版 構造化抄録 CD-ROM付(第1版)	編）日本乳癌学会	2008/09/26
16	乳腺における細胞診および針生検の報告様式ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ（第1版）	編）日本乳癌学会	2003/06/05
17	乳がん診療ガイドラインの解説 2006年版　乳がんについて知りたい人のために	編）日本乳癌学会	2006/07/07
18	子宮体癌治療ガイドライン 2006年版（第1版）	編）日本婦人科腫瘍学会	2006/10/10
19	子宮頸癌治療ガイドライン 2007年版（第1版）	編）日本婦人科腫瘍学会	2007/10/20
20	卵巣がん治療ガイドライン 2007年版（第1版）	編）日本婦人科腫瘍学会	2007/10/20
21	前立腺癌診療ガイドライン 2006年版　構造化抄録 CD-ROM付(第1版)	編）日本泌尿器科学会	2006/05/20

前頁より続き

22	腎癌診療ガイドライン 2007 年版　構造化抄録 CD-ROM 付(第 1 版)	編集）日本泌尿器科学会	2007/10/10
23	精液検査標準化ガイドライン　付.ＣＤ－ＲＯＭ(第 1 版)	監修）日本泌尿器科学会 編）精液検査標準化ガイドライン作成ワーキンググループ	2003/07/20
24	生殖医療ガイドライン 2007 (改訂第 3 版)	編）日本生殖医学会	2007/08/01
25	尿路結石症診療ガイドライン（第 1 版)	編）日本泌尿器科学会ほか	2002/12/20
26	尿路感染症臨床試験ガイドライン（第 1 版)	編）日本泌尿器科学会尿路感染症臨床試験ガイドライン作成委員会	1998/02/28
27	臨床試験実施ガイドライン　第 III 相試験を中心として 2008 年 3 月(第 2 版)	編）日本癌治療学会臨床試験委員会	2008/09/20
28	小児白血病・リンパ腫の診療ガイドライン（第 1 版)	編）日本小児血液学会	2007/09/28
29	小児急性中耳炎診療ガイドライン 2009 年版 (改訂第 2 版)	編）日本耳科学会	2008/12/26
30	嚥下障害診療ガイドライン 耳鼻咽喉科外来における対応 2008 年版　嚥下内視鏡検査の実際動画 CD-ROM・付(第 1 版)	編）日本耳鼻咽喉科学会	2008/08/01
31	科学的根拠に基づく皮膚悪性腫瘍診療ガイドライン　構造化抄録 CD-ROM 付き(第 1 版)	編）日本皮膚悪性腫瘍学会	2007/04/20
32	ＧＩＳＴ診療ガイドライン（第 1 版)	編）日本癌治療学会ほか	2008/03/31
33	前立腺がん検診ガイドライン 2008 年版　構造化抄録 CD-ROM 付(第 1 版)	編）日本泌尿器科学会ほか	2008/04/01
34	外来がん化学療法看護ガイドライン 1.抗がん剤の血管外漏出の予防・早期発見・対処 2009 年版(第 1 版)	編集）聖路加看護大学外来がん化学療法看護ワーキンググループ	2008/12/26
35	科学的根拠に基づく口腔癌診療ガイドライン 2009 年版 構造化抄録 CD-ROM 付(第 1 版)	編集）日本口腔腫瘍学会口腔癌治療ガイドライン作成ワーキンググループほか	2009/01/30
36	リンパ浮腫診療ガイドライン 2008 年度版 (第 1 版)	編集）リンパ浮腫診療ガイドライン作成委員会ほか	2009/01/20

日本癌治療学会ホーム・ページの「がん診療ガイドライン」のページに公開されている10がん腫（2009年2月20日現在）

No.	疾患	URL	情報元の学会等
1	胃がん	http://www.jsco-cpg.jp/item/01/index.html	日本胃癌学会
2	GIST	http://www.jsco-cpg.jp/item/03/index.html	日本癌治療学会 GIST ガイドライン委員会
3	食道がん	http://www.jsco-cpg.jp/item/09/index.html	日本食道学会
4	腎がん	http://www.jsco-cpg.jp/item/10/index.html	日本泌尿器科学会
5	膵がん	http://www.jsco-cpg.jp/item/11/index.html	日本膵臓学会
6	大腸がん	http://www.jsco-cpg.jp/item/13/index.html	大腸癌研究会
7	胆道がん	http://www.jsco-cpg.jp/item/14/index.html	日本肝胆膵外科学会
8	乳がん	http://www.jsco-cpg.jp/item/16/index.html	日本乳癌学会
9	皮膚悪性腫瘍	http://www.jsco-cpg.jp/item/21/index.html	日本皮膚悪性腫瘍学会
10	卵巣がん	http://www.jsco-cpg.jp/item/22/index.html	日本婦人科腫瘍学会

JPHC Study の結果概要として公開されている 91 項目（2009 年 2 月 20 日現在）

No.	項目名	公開年月日
1	飲酒と死亡	1999.2.24
2	喫煙と死亡	2002.1.25
3	肥満指数と死亡	2002.1.25
4	飲酒とがん死亡	2002.5.1
5	喫煙と肺がん罹患	2002.7.10
6	アンケート回答有無と死亡	2002.7.10
7	喫煙・飲酒と胃がん罹患	2002.11.20
8	野菜・果物摂取と胃がん罹患	2002.11.20
9	大豆イソフラボン摂取と乳がん罹患	2003.6.17
10	飲酒・喫煙と大腸がん罹患	2004.1.18
11	食塩塩蔵食品と胃がん罹患	2004.1.18
12	飲酒と脳卒中罹患	2004.3.15
13	食生活パターンと胃がん罹患	2004.4.16
14	喫煙とがん罹患	2004.4.23
15	野菜･果物摂取量と肺がん罹患	2004.5.22
16	緑茶飲用と胃がん罹患	2004.8.3
17	肥満度(BMI)とがん罹患	2004.8.11
18	喫煙と脳卒中罹患	2004.8.24
19	魚・n-3 脂肪酸摂取と大腸がん罹患	2004.9.27
20	飲酒と 2 型糖尿病の発症	2004.10.25
21	喫煙・受動喫煙と乳がん罹患	2004.11.29
22	飲酒とがん罹患	2004.12.24
23	たばこと自殺	2005.1.17
24	コーヒー摂取と肝がん罹患	2005.2.16
25	野菜・果物摂取と大腸がん罹患	2005.5.9
26	食生活パターンと大腸がん罹患	2005.5.12
27	肥満指数・身長と大腸がん罹患	2005.9.8
28	生殖関連要因やホルモン剤使用と女性の肺がん罹患	2005.9.14
29	魚・n-3 脂肪酸摂取と虚血性心疾患発症	2006.1.16
30	胃がん検診受診と胃がん死亡率	2006.1.19
31	飲酒と自殺	2006.3.1
32	肥満指数(BMI)、身長と前立腺がん	2006.3.13
33	喫煙と虚血性心疾患との関係	2006.4.11
34	高感度 CRP（C 反応性蛋白)と大腸がん罹患との関係について	2006.4.19
35	特定集団の相対リスクは一般化できるか	2006.5.26
36	食物繊維摂取と大腸がん罹患との関連について	2006.7.20
37	ヘリコバクター・ピロリ菌感染と胃がん罹患との関係	2006.9.4
38	糖尿病とその後のがん罹患との関連について	2006.9.26
39	肺がん家族歴と肺がん罹患との関連について	2006.10.10
40	卵と心筋梗塞発症の関連について	2006.11.17
41	便通、便の状態と大腸がん罹患との関連について	2006.12.20

前頁より続き

42	身体活動量と大腸がん罹患との関連について	2007.2.20
43	生理・生殖要因と乳がん罹患の関連について	2007.2.21
44	体格と乳がん罹患の関連について	2007.2.21
45	ビタミンC摂取と老人性白内障発症の関係について	2007.2.27
46	インスリン関連マーカーと大腸がん罹患との関係について	2007.3.1
47	大腸がん検診受診と大腸がん死亡率との関係	2007.3.14
48	大豆製品・イソフラボン摂取量と前立腺がんとの関連について	2007.3.16
49	飲酒パターンと総死亡との関連について	2007.4.6
50	飲酒習慣と心筋梗塞の関連について	2007.4.6
51	ビタミンDと大腸がん罹患との関係について	2007.8.1
52	コーヒー摂取と大腸がんとの関連について	2007.8.1
53	葉酸、ビタミンB6、ビタミンB12、メチオニン摂取と大腸がん罹患との関連について	2007.8.1
54	肥満指数（BMI）、体重の変化と虚血性心疾患発症について	2007.8.22
55	肥満指数・運動量、喫煙・糖尿病歴と膵がんとの関連について	2007.10.5
56	緑茶・コーヒー摂取と膵がんとの関連について	2007.10.5
57	野菜・果物と全がん・循環器疾患罹患との関連について	2007.10.24
58	イソフラボンと脳梗塞・心筋梗塞発症との関連について	2007.12.3
59	受動喫煙とたばこを吸わない女性の肺がんとの関連について	2007.12.12
60	緑茶飲用と前立腺がんとの関連について	2007.12.19
61	胆石症、肥満指数と胆道がんとの関連について	2007.12.19
62	血中の葉酸と大腸がん罹患との関係について	2007.12.20
63	社会的な支えと循環器疾患の発症・死亡リスクとの関連	2008.2.6
64	血中の緑茶ポリフェノールと胃がん罹患との関係について	2008.2.22
65	血中イソフラボン濃度と乳がん罹患との関係について	2008.3.7
66	分化型胃がんと未分化胃がんにおけるヘリコバクター・ピロリ感染の意味について	2008.3.25
67	乳製品、飽和脂肪酸、カルシウム摂取量と前立腺がんとの関連について	2008.4.16
68	葉酸、ビタミンB6、ビタミンB12摂取と虚血性心疾患発症との関連について	2008.5.27
69	飲酒と肺がんの発生率との関係について	2008.5.30
70	身体活動量と死亡との関連について	2008.6.4
71	カルシウム摂取量と腰椎骨折との関連について	2008.6.26
72	身体活動量とがん罹患との関連について	2008.7.10
73	血中のカロテノイドと胃がん罹患との関係について	2008.7.17
74	タイプA行動パターンと虚血性心疾患発症リスクとの関連	2008.7.18
75	カルシウム摂取と循環器疾患の関連について	2008.7.29
76	教育歴、社会的役割と循環器疾患発症リスクとの関連	2008.8.12
77	野菜・果物摂取と扁平上皮細胞由来食道がんとの関連について	2008.8.14
78	血中有機塩素系化合物濃度と乳がん罹患との関係について	2008.8.22
79	コーヒーと子宮体がんの発生率との関係について	2008.9.1
80	大豆製品・イソフラボン摂取と大腸がんとの関連について	2008.9.10
81	喫煙、禁煙年数と歯の喪失との関連について	2008.9.22
82	学歴とがん・循環器系疾患罹患リスク及び死亡リスクとの関連について	2008.9.22
83	身体指標とメタボリックシンドロームとの関連について	2008.9.29